

工事の必要性と工事内容



床版の取替

1968年に開通した東名多摩川橋。開通から50年余りが経過し、大型車の交通量も多いため、老朽化が進んでいます。これまで、部分的な補修や補強を繰り返してきましたが、橋梁構造体の損傷が進み、床版（橋の床部分）下面のコンクリートの剥離や、それに伴う内部鉄筋の露出・腐食などが確認されており、抜本的な対策として、床版の取り替えが必要です。



東名多摩川橋



床版の損傷状況

コンクリートの剥離

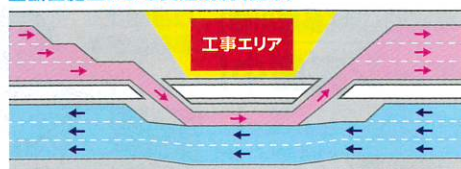
内部鉄筋の露出

お客さまへのご迷惑を最小限とするための工夫

東名川崎IC～東京ICは、交通量が10万台/日を超える重交通区間です。これまでのリニューアル工事のように、車線数を減少させて工事をおこなった場合、大規模な渋滞が懸念されます。

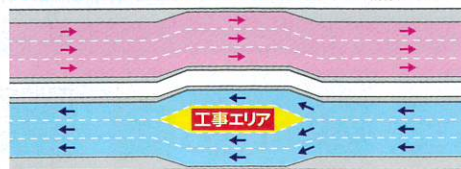
そこで、今回のリニューアル工事は、最新の工法により床版を分割して取り替えることで、車線数を極力減らさず、6車線を確保しながら工事をおこないます（一部期間で5車線になることがございます）。分割して施工するため、工事期間は長くなりますが、車線数の確保が可能となり、渋滞など交通への影響を最小限にします。

全断面施工による交通規制（従来）



大型クレーンによる全断面施工（従来）

現況車線確保による交通規制（今回）※STEP4規制イメージ



移動床版架設機を用いた現況車線確保による施工（イメージ）

東名多摩川橋インフォメーションセンターのご案内

参加無料・事前予約制

来て、見て、聞いて！

東名多摩川橋床版取替の工事現場を一般公開！



お申し込みなど詳細はこちら

車線数をなるべく減らさない新しい「カタチ」のリニューアル工事。事業PR施設「東名多摩川橋インフォメーションセンター」では、その現場を一般公開。普段体験することのできない工事のリアルを見て、学ぶことができる貴重な機会です。奮ってご参加ください。

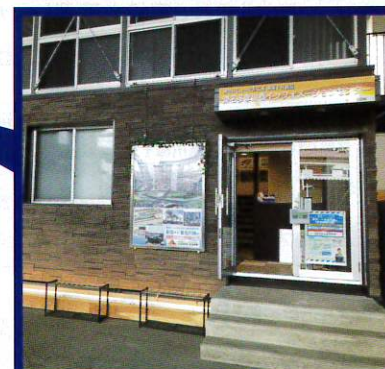
※一部専門性の高い内容となっております。

※作業帯切り替え作業のため、2023年7月はお休みとさせていただきます8月から再開する予定です。

※来場者安全確保のため、STEP4では施工現場に行くことができません。現場に設置したカメラなどにより施工状況をご確認いただく予定です。



ハイウェイストライダーと呼ばれる移動床版架設機により、狭いスペースを移動しながら古い床版の撤去や新しい床版の設置をおこなうことが可能に！



東名多摩川橋インフォメーションセンター